

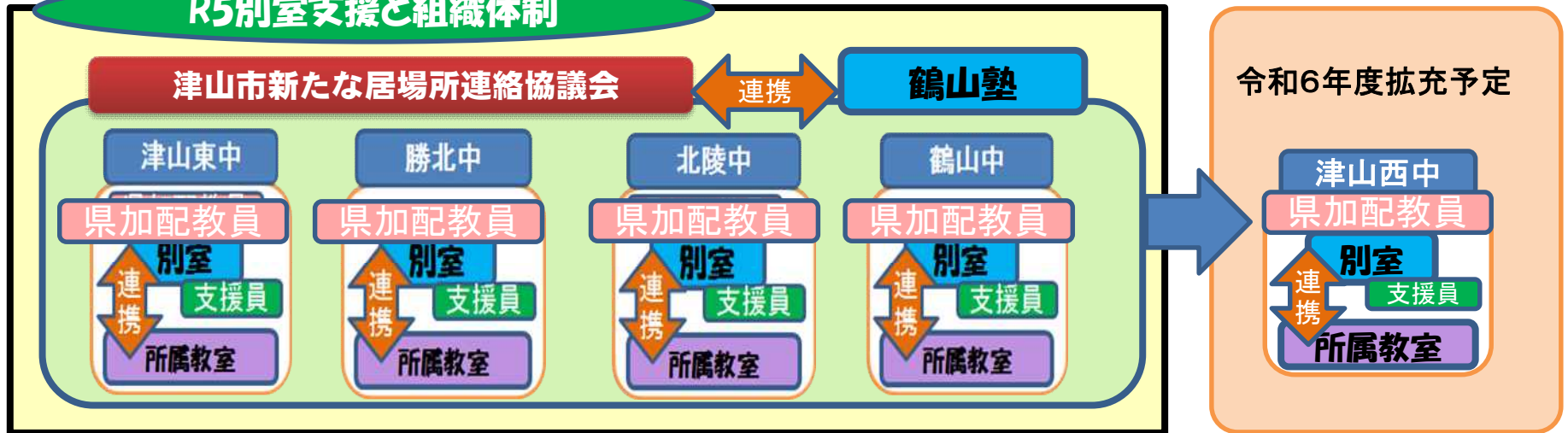
津山市の長期欠席・不登校の現状

1 調査結果

【長欠・不登校】		小学校			中学校		
		R2	R3	R4	R2	R3	R4
全国	長期欠席者数	113,746	180,875	196,676	174,001	232,875	263,972
	うち、不登校	63,350	81,498	105,112	132,777	163,442	193,936
	不登校出現率 (%)	1.0	1.3	1.7	4.1	5.0	6.0
岡山県 (国公立)	長期欠席者数	2,193	3,012	3,611	3,103	4,015	4,529
	うち、不登校	933	1,146	1,389	1,667	1,992	2,279
	不登校出現率 (%)	0.94	1.17	1.44	3.25	3.88	4.48
津山市	長期欠席者数	118	134	182	183	212	252
	うち、不登校	56	50	57	76	93	91
	不登校出現率 (%)	1.08	0.98	1.13	2.85	3.52	3.64

# 津山市「新たな居場所」(中学校別室支援)について

## R5別室支援と組織体制



	鶴山中学校(1)	勝北中学校(1)	津山東中学校(2)	北陵中学校(2)
1学期 (常時)	8	3	16	6
1学期 (一時避難)	2	2	0	1
2学期 (常時)	11(+3)	6(+3)	18(+2)	9(+3)
2学期 (一時避難)	4(+2)	2	0	4
成果	一時避難の利用で教室へ戻れる生徒がいる。教室へ戻れる教科から検討を始める生徒が出てきている。小中学校の不登校支援の連携進められている。	別室を中心に教育相談や小中連携による支援の必要な児童について連携が進んでいる。継続利用の生徒の別室での滞在時間が増え、登校日数も増えている。	個別ブースなどの環境整備を進め、利用する生徒への個別支援を進めた結果、利用者が増加している。教職員の来室が増え、生徒とのつながりを深める取り組みへつながっている。	一時利用から教室へ戻れる生徒がいる。別室支援により登校日数が増えてきている生徒がいる。利用している3年生は、進学希望決定し学習に迎えるようになっている。

### 今後の課題

- ・校内運営についてはSSW・SC・鶴山塾等関係機関も含めた「チーム学校」による不登校支援の推進と関係課との連携を進め児童生徒への支援をそれぞれの立場から協力してつなげていく。
- ・小中連携による切れ目のない支援体制のための研修・協議会を検討していく。
- ・不登校傾向にある家庭への支援を小中別に検討し、実施していく。

小学校へ行きづらさを感じる児童の保護者の方へ

話してみませんか？



## 第2回 開催のご案内

### ●4・5・6年生保護者の会

令和6年2月16日(金)

会 場:高野公民館

住所:津山市高野本郷1683-2

TEL:0868-26-1056

時 間:19:00~21:00

### ●1・2・3年生保護者の会

令和6年2月22日(木)

会 場:津山中央児童館

住所:津山市山北765

TEL:0868-22-2099

時 間:10:00~12:00

※小学生のお子様同伴でも参加できます。(別室でスタッフが付き添います。)

## 参加者の声



- チラシをもらったとき、小学校の親の会が初めてできたと知り嬉しかった。
- 中学校生活や卒業後など、先の見通しを持つことができた。
- 同じ立場の人の話を聞くチャンスが無かったので、今まで誰とも思いを話す事ができなかった。来てよかった。
- 聞きたかった関係機関などの情報を得ることができた。

## 学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置に向けて

### 1. 本市に学びの多様化学校を設置する意義

- ①本市における児童生徒の長期欠席者数は増加傾向であり、不登校対策は喫緊の課題である。
- ②教育支援センター「鶴山塾」、中学校の「別室支援」に加えて、「学びの多様化学校」の設置により、子どもたちの多様な学びの機会を増やす。
- ③通常の学校と同様に週当たり最大5日、子どもたちの多様なニーズに対応し、目的を持って学べる特別の教育課程が編成できる。
- ④不登校等の子どもたちが自己選択、自己決定を行い、社会の形成者として成長する環境をつくることができる。

### 2. 本市の「学びの多様化学校」の基本方針（コンセプト）

（仮）自らが決めて学べる学校

〈3つの重点〉 ①学びの保障 ②自己選択・自己決定 ③地域とのつながり

### 3. 設置する学校種・形態・生徒数

項目	内容	理由
学校種	中学校	中学生は、小学生よりも長期欠席・不登校者数が多い。 ※将来的には小学生も視野に入れ、学校設置の検討を進める。
設置形態	分教室型	本校とは異なる指導目標で学校生活を送ることが可能。 施設整備等に係る負担が比較的小さく早期設置が可能。 ※分教室：本校から分離し他の建物等を使用して設置する教室
生徒数	10人× 3学年	少人数制を重視する。 ※1-②を前提に鶴山塾、中学校別室支援対象者以外の不登校等生徒から推計

### 4. 設置場所

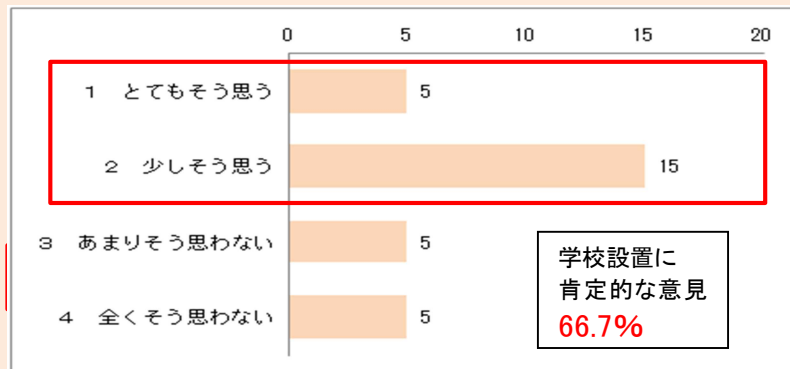
教育委員会所管の施設を中心に検討中

## 学びの多様化学校設置に関するアンケート集計結果(一部抜粋)

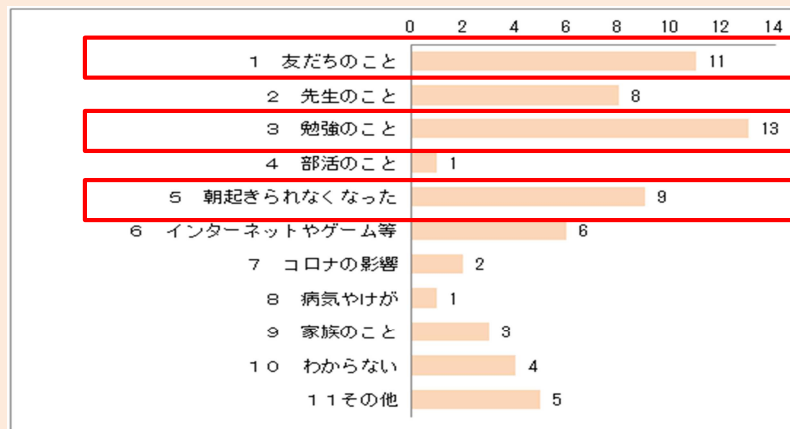
調査期間	2023年9月25日～10月18日	調査方法	インターネット調査
回答者数(対象者)	児童生徒30人(令和4年度に30日以上欠席した小学5年生から中学3年生までの児童生徒)		
	保護者61人(令和4年度に30日以上欠席した児童生徒の保護者)		

### 児童生徒の意見

【児童生徒】学びの多様化学校ができたら、通ってみたいと思いますか。



【児童生徒】あなたが学校へ行きづらくなり始めたきっかけは何でしたか。

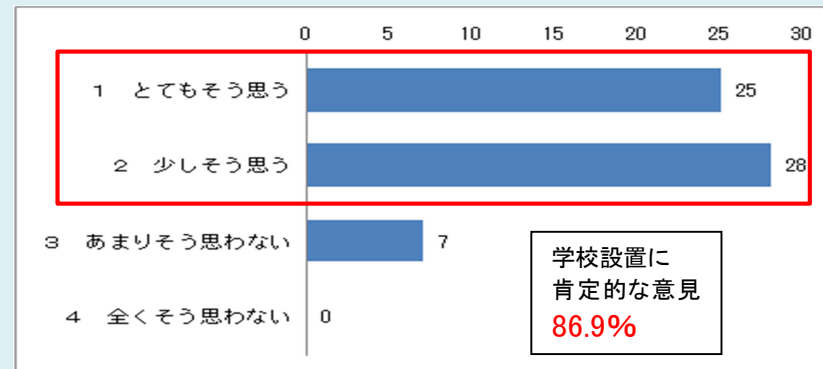


【児童生徒】あなたが学校へ通うために、どのようなことがあればいいと思いますか。

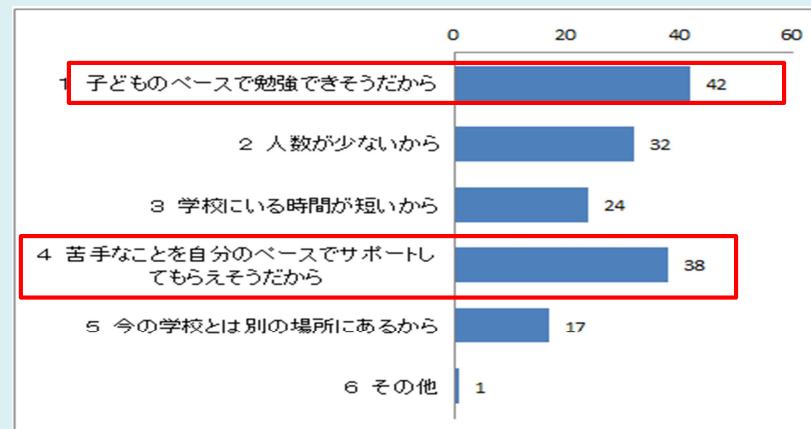
- ・学校で生活する時間を短くできること……16人
- ・ひとりに、自分のペースに応じて勉強を教えられること……15人

### 保護者の意見

【保護者】学びの多様化学校ができたら、通わせてみたいと思いますか。



【保護者】「1とてもそう思う」「2少しそう思う」と答えた人はどうしてですか。



【保護者】お子様が学校へ通うために、どのようなことが必要だと思いますか。

- ・ひとりに、自分のペースに応じて勉強を教えられること……41人
- ・学校で生活する時間を短くできること……24人